



永福学園通信

令和7年2月25日

第10号

東京都立永福学園
統括校長 緒方直彦



評価と改善について



寒気が一層強まり、冷たい風が街を吹き抜ける季節となりました。特に今週は冷え込みが強く、外を歩くと風の冷たさが身にしみる日が続いています。それでも、学校の植栽の木々には小さな芽吹き兆しが見られるようになりました。少しずつ春が近づくこの時期は、教職員一人一人が、これまでの指導を振り返り十分な指導・支援ができたかどうかを再確認する重要な時期です。残りの時間で児童・生徒の成長をどのようにサポートしていくかを考え、気持ちを新たに作る時期にもなります。

一人一人の評価・振り返りは、直ちに授業改善等に反映できる重要な取組です。一方で、組織全体の評価も重要です。学校運営や教育活動、地域との連携等について改善を図るためには、個々の教職員の実践だけでなく、学校全体の取り組みを評価することが必要です。本校では、学校運営連絡協議会を通じた保護者代表や地域の方々との意見交換を行うとともに、「評価委員会」にて学校評価のためのアンケートの実施や結果の分析・検討などを行い、学校の課題や改善点などについて提言をいただいています。

さて、今年度最後の学校運営連絡協議会（全3回の3回目）が、去る2月19日に開催されました。委員の方々からは、今年度の学校の取組について厳しくも温かい多くの意見をいただきました。特に、ホームページやSNS等の活用について、より積極的に情報発信の手段を整備して保護者や地域のニーズに応え、信頼関係を強化するよう助言をいただきました。今後、ホームページの整理や、東京都で進めている「保護者コミュニケーションシステム」の導入について検討し、情報連絡の活性化を図ってまいります。

また、評価委員会からは、学習内容や指導方法の質的な向上を目指すため、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の徹底についての重要性が指摘されました。児童・生徒の教育的ニーズの実態に応じるため、学習指導要領に基づいて創意工夫を行い、今後の授業改善につなげていく必要があると強く感じております。

最後になりますが、保護者の皆様には、温かい協力者として支えていただくとともに、評価者としての客観的な視点を合わせもっていただくことが、学校のさらなる改善には欠かせません。建設的な意見や御指摘をいただき、共に歩んでいけたらと考えております。引き続き、御支援と御理解を賜りますようお願い申し上げます。

肢体不自由教育部門 副校長 安田 泉



両部門の特色ある授業紹介



【肢体不自由教育部門】

指導教諭：市宮 環美

東京都では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、現在「第四次東京都子供読書活動推進計画」が進行中です。本校でも、本計画に基づき、読書環境の整備を進め、児童・生徒の読書習慣の形成に向けた様々な読書活動に取り組んでいます。今回は、国語と図画工作(美術)の教科横断的な授業「POPをつくろう」について紹介します。

※本のPOP(Point of purchase)・・・書店に置いてあるカードのような本の宣伝広告

①ぼくの、わたしの、おすすめの本

図書館には毎日、たくさんの児童・生徒が国語の授業で来館します。好きな本を手にとったり、絵や読み聞かせの言葉を楽しんだり、多くの児童・生徒が読書を楽しんでいます。小学部では、図画工作の時間に、図書館で出会った本の中からおすすめの本を紹介するPOP作りを行い、おもしろい！楽しい！と思ったページを、様々な色や形、絵で表現した作品を制作しました。



写真は、読書月間に合わせて図書館に展示したときの様子です。就業技術科の生徒を含めた多くの児童・生徒がPOP作品を見て、おすすめの本を手にとって鑑賞しました。

②絵本の情景を思い描こう

中学部では、国語で学んだ絵本「小さなハチドリのちいさないつてき」(絵・再話:ウノサワケイスケ, 企画・原案:はしづめちよこ, 出版社:イマジネーション・プラス)を用いて、美術の時間にPOP制作を行いました。お話に登場する動物や自然現象(雷、山火事、雨など)を、色を選び、形や筆の勢いを考えながら表現しました。制作の最後には、筆に色水や墨を含ませて「一滴」たらし、絵本の主題である『小さな一滴が大きな力になる』ことを表現しました。一人一人の作品が集まり、まさに大きな力強い一つのPOP作品に仕上がりました。こちらは、現在図書館に展示してあります。ぜひご覧ください。



【就業技術科】

主幹教諭：秋谷 昌義

「つながる授業」

就業技術科の特色のある授業は、「職業に関する専門教科」(以下、専門教科)です。今回は、この時期ならではの特色について御紹介いたします。2年生と3年生は、同じ曜日に専門教科の授業が行われますが、学年ごとに授業の内容や進度に違いがあるため、学年別に「5コース×2学年」の計10か所で別々に授業が行われています。11月下旬から3年生は、これまでのまとめの取り組みとして3月に行われる「技能競技会」に向けての練習が始まります。技能競技会では、今までの学習の集大成を発表するために練習を積み重ねます。競技会なので、互いにライバルですが、練習では相互にアドバイスをし、切磋琢磨し技術を高めます。これらの取り組みにより、挨拶やメモを取ることで、「報連相」などの基本ができて、企業の方々からも良い評価をいただいています。

もう一つ、3年生として取り組むことがあります。2年生への引継ぎです。自分たちが今まで取り組んできた作業内容や注意点、気持ちや姿勢などを3年生が2年生に伝えます。説明する3年生は事前に台本を作り、教員や友達に見てもらいながら練習します。自分たちの取り組みを言語化することで、自分への理解もより深まり、人に伝える難しさを改めて知ります。説明を受ける2年生は、先輩の話に緊張しながら聞き、メモ帳に要点を記入します。1年前の自分を思い出し工夫しながら伝え、そんな先輩の姿に1年後の自分を思う。緊張感あふれる素敵な場面が、たくさん見られるのが、卒業前のこの時期です。

単なる伝達ではない学年間の「つながり」ですが、卒業後にも卒業生が実習生を受け入れ、授業と同じようにつながっています。

東京都立永福学園

副校長 山崎 裕之 安田 泉 松本 忍
主幹教諭 池田 佳信 池田 奈央子

〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号

電話 03-3323-1380

<https://www.eifuku-sh.metro.ed.jp/>